

【JCAABE 非日常を日常にするアイデア／良質なフェイズフリー建築まちづくりコンクール】事業

■趣旨:フェイズフリーデザインとは、災害時と日常時の両方において役に立つデザインのことであり、災害の多い日本において、この視点はとても大切です。災害時のために用意しても普段から使っていないと、いざという時に使えないことがあります。おいしい非常食は普段のお料理にも使えます。仕事にも履けるスニーカーは災害時に電車が止まっても歩いて移動することができます。建築まちづくりも同様で、災害時にも役に立つデザインが求められます。広場は普段、市民の遊び場、憩いの場ですが、災害時にはトリアージや物資の配給、仮設住宅建設など役に立ちます。住宅の駐車場も同様、屋根のかかった庇の下やピロティーは風雨を避けるのに役にたつでしょう。まちづくりにおいては、事前復興まちづくり活動があります。これは日常時に災害が起こったことをシミュレーションして復興まちづくり体験をする活動です。普段からまちづくり活動に参加していたら、いざという時に、それまでに育んだ人の繋がりや経験によって乗り越えることができるでしょう。

そこで、良質なフェイズフリーデザインの建築やまちづくりを推し進めるために、そのクライテリア(判断基準)を構築し、それを用いて、一般部門には既存の建築やまちづくり活動を対象にしたコンクール、学生部門にはアイデアコンペを実施する事業を行い、その認識を拡げ、建築設計やまちづくり活動に、活かされることを期待するものです

■プロセス

- ①良質なフェイズフリー建築まちづくりのクライテリアを構築する。
- ②それをまとめた小冊子を作成すると共に、ホームページに掲載する。
- ③そのクライテリアを元に、コンクールを実施する。
- ④その成果をホームページに掲載し、次回のコンクールに繋げる。

■方法:クライテリア構築について検討会をおこなう。(会員は ZOOM オブザ・ハ〜参加可)

●クライテリア検討会主査: 山本想太郎(建築家・JCAABE 設計プロポーザル相談室長)、
・連健夫(建築家・JCAABE 代表理事)・市古太郎(東京都立大学教授、JCAABE 特別顧問)・松村哲志(名古屋女子大、JCAABE 理事)・平木繁(建築家・事前復興まちづくり関係で博士号取得、JCAABE 正会員)・山崎俊裕(東海大学名誉教授、建築計画学、公共建築審査委員長、JCAABE 正会員)・奥村誠一(奥村誠一建築再生設計事務所、文化学園大学准教授、JCAABE 正会員)・川島範久(川島範久建築設計事務所、明治大学准教授、JCAABE 正会員)

- 全国支部長(菅沼秀樹、松本純一郎、鳥居久保、荒木公樹、山田暁、野村正人、鱒坂徹)
- JCAABE 会員から有志、数名

○フェーズフリー協会: 佐藤唯行(一般社団法人フェーズフリー協会、代表理事)

○コンクール: 一般部門は行政、民間含め広く公募する。学生部門は自主オルガナイズの仕組みを入れる。

- ・表彰は、一般部門: 建築系 2 事例(過去 5 年以内の新築)、まちづくり系 2 事例(リノベーションを含む)
学生部門: アイデアコンペとする。優秀賞と準優秀の2提案
- ・審査は、1 次審査(資料審査)、2 次審査は ZOOM 公開

○全体スケジュール

2023 年8~10月、スポンサー募集など、スタートアップ準備
10月~2024 年3月、クライテリア検討会

※第1回: 10 月 29 日 10~12 時、ZOOM、佐藤氏(フェーズフリー協会代表理事)レクチャー+ディスカッション
<https://us02web.zoom.us/j/84970365949?pwd=RFcyeTlpR2J5bVRoZlI3TElEU3UzUT09>
ミーティング ID: 849 7036 5949 パスコード: 384215

JCAABE 会員であれば聴講可能とし、会員有志メンバー数名の希望を募り、クライテリア検討会メンバーを確定する。
第2回(12 月 17 日事前復興まちづくり)、第3回(事例研究)、第4回(3 月 2 日、まとめディスカッション)
4~6月小冊子作成、コンクール公募、7~8月コンクール審査、9月コンクール審査発表会

■主催: JCAABE 一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構、

協力: 一般社団法人フェーズフリー協会

■共催: 総合資格、 協賛会社(2~3社)